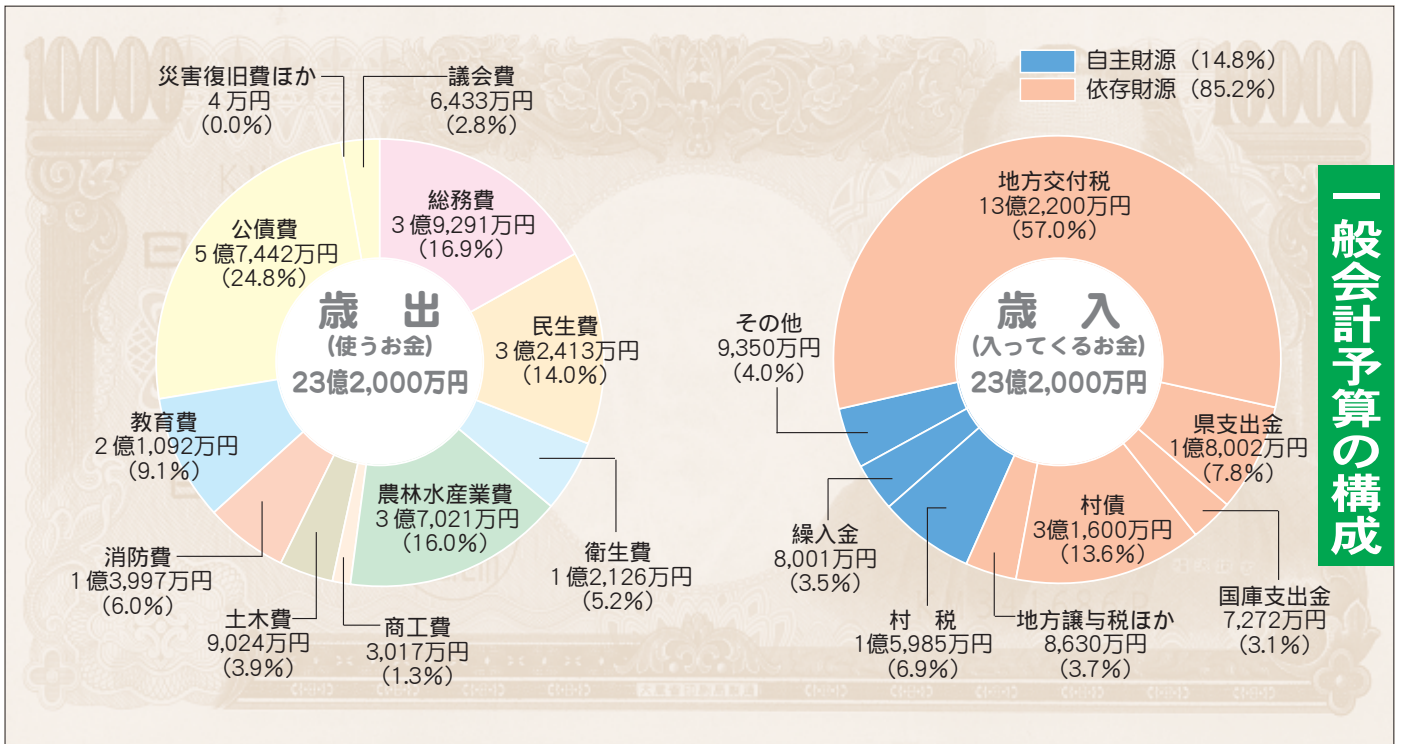


16年度の村の予算は一般会計で23億2,000万円

教育・文化・人材育成や産業の振興が重点です



平成十六年度の当初予算が、三月定例会で決まりました。一般会計（議会費から予備費まで）の基本的な仕事に充てるお金は二十三億二千万円で、前年度に比べ5.0%の減額となっています。厳しい財政状況の中ですが、教育文化の充実と産業の振興、生活環境基盤の整備、福祉サービスに重点が置かれた予算編成となっています。

収入の主なものは、国から交付される地方交付税が十三億二千二百万円、57.0%、国・県などからの補助金、国庫・県支出金が二億五千二百七十四万円、10.9%、村が事業を行うために国などから借り入れるお金、村債は三億一千六百万円、13.6%、皆さんが納めた村民税、固定資産税などの税金、村税、基金からの繰入金などを含めた自

効率的に財源を運用



子どもたちの笑顔は村の財産です

主財源は三億三千三百三十六万円、14.4%となっています。支出を目的別に見ると、国や県などへの借金返済のための公債費が五億七千四百四十二万円、24.8%、村有財産管理や庁舎管理などのための総務費が三億九千二百九十一万円、産業基盤の整備のための農林水産業費が三億七千二百一十一万円、16.0%、少子高齢化社会に対応した福祉サービスなどの民生費が三億二千四百三十三万円、14.0%と続いています。

依然として景気が低迷を続ける中、厳しい行財政状況ですが、「北緯四〇度東端の地球村ふだい」の将来を展望し、限られた財源の効率的運用、行財政の健全化を図り、村民の皆さまのため、大切に使っていきます。